

PMX-DHP の至適導入タイミングの検討：多施設後ろ向き研究

2015年1月1日から2021年12月31日までに集中治療室でPMX-DHPによる治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「PMX DHP の至適導入タイミングの検討：他施設後ろ向き研究」という研究を行います。この研究は、2015年1月1日から2021年12月31日までに日立総合病院で敗血症性ショックと診断とされ、集中治療室でPMX-DHPという血液浄化療法を受けた方を後ろ向きに調査する研究です。研究目的や研究方法は以下の通りとなります。個々人への直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究への参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：PMX-DHP の至適導入タイミングの検討：多施設後ろ向き研究

対象期間：2015年1月1日～2021年12月31日

研究責任者：日立総合病院 救急集中治療科 高橋雄治

(2) 研究の意義、目的について

PMX-DHP（ポリミキシン B 固定化繊維カラム直接血液還流法）は重症の敗血症性ショックに使用されていますが、明確なエビデンスがないのが現状です。PMX-DHP の生命予後改善への効果は、適切なタイミングで使用するによって得られるのではないかと考えられます。本研究では、全国の病院と協力して、PMX-DHP の敗血症性ショックに対する治療効果について調査、解析して予後との関係を調べるものです。これにより PMX-DHP を開始する最適なタイミングを検討することを目的としております。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2015年1月1日から2021年12月31日までに日立総合病院の集中治療室に入院した方のうち、敗血症性ショックに対してPMX-DHP という治療を受けた方を対象としております。全国の多くの病院にも参加を募り、データを収集し、PMX-DHP の敗血症性ショックに対する効果の解明、適切な開始のタイミングなどを解析します。今後日本での、敗血症診療における血液浄化療法の使用において、貴重な研究データになることが予想されます。

この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

情報：年齢、性別、血圧値、脈拍値、治療薬、血液検査データ（肝機能、凝固系指標等）、医療費

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

横浜市立大学附属病院 集中治療部 高木 俊介

〒248-0014 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9

電話番号：045-787-2800（代表）

メールアドレス：shun5323@yokohama-cu.ac.jp

作成日：2022年7月11日